【著作紹介】前間恭作の学問と生涯　―日韓協約の通訳官、朝鮮書誌学の開拓者

著者：白井　順（文学部東洋思想文化学科　准教授）
出版社：風響社
出版年：2015 年 10 月発行
価格：700 円＋税
ISBN：9784894897809
所蔵状況を確認する
http://triton.lib.toyo.ac.jp/detail?bbid=U102395124

内容：
外務省の通訳官として歴史の舞台を演出し、『韓語通』『古鮮冊譜』など多くの著作を残し、朝鮮学の基礎を築いた人生を掘り起こす。

風響社の紹介ページ
http://www.fukyo.co.jp/book/b211046.html

教員メッセージ

東洋大学から歩いて 15 分のところに東洋文庫があります。東洋学専門の文献収集と研究に特化した研究機関です。
その東洋文庫が所蔵する朝鮮本の大半は前間恭作がもともと持っていたものです。
朝鮮本とは、朝鮮で刊行された書籍のことで、黄褐色の表紙に活字で印刷されています。
中国の漢籍や和刻本と違って、印刷量が少なく、東洋文庫の朝鮮本は非常に貴重な資料です。
前間恭作は日本で最初に朝鮮本の目録『古鮮冊譜』を作った人です。
本書は松下幸之助記念財団のスカラシップを受けて、その研究成果として出版しました。
東アジア研究に携わる皆様の一助となれば幸いです。

目次

はじめに

一　前間恭作の家族

二　幼少期～長崎時代～東京

初めての朝鮮／笠原半九郎・田中義一との出会い／長崎の叔父・友諒／東京遊学／父の収監／親友・上山良吉／笠原百里の許で――明治一九年～二一年三月／慶應義塾時代――明治二一年四月～二四年四月

三　朝鮮時代――明治二四年八月～四四年三月

朝鮮留学――明治二四年八月～二七年七月／日清・日露・日韓併合条約の渦中で／結婚とシドニー駐在／伊藤博文との交流／朝鮮学の黎明――朝鮮会／『韓語通』の出版と白鳥庫吉／朝鮮語研究会／京城の在山楼

四　東京・青山時代――東洋学のために

帰国後の生活／盟友・浅見倫太郎／花下居と娘・善／在山楼蔵書を東洋文庫へ寄贈／鮎貝房之進との交流／『月印釈譜』をめぐる人々／孫晋泰『朝鮮古歌謡集』について／小倉進平『郷歌及び吏読の研究』について／花下居を往来する人々

五　福岡・箱崎時代――後進のために

中村庄次郎と『交隣須知』／岩井大慧と二度目の寄贈／九州帝国大学の人々／京城帝国大学と書物同好会／その他の交流／売却した蔵書／『朝鮮の板本』と『半島上代の人文』

六　遺品の行方

参考文献
前間恭作　略年譜
あとがき

［著者］　白井　順（シライ　ジュン）

1974 年、横浜生まれ。
2003 年大阪市立大学大学院博士後期課程単位取得退学。
2011 年、中国学博士（大東文化大学）を取得、現職は四川大学古籍整理研究所副研究員。
「『朱子訓蒙絶句』は如何に読まれたか―朱子学の普及と伝播の一側面」（『日本中国学会報』58 集、2007 年）、「陽明後学と楊応詔―嘉靖年間の理学と『閩南道学源流』の背景」（『東方学』第 115 輯、2008 年）、「東アジアにおける薛瑄『読書録』の刊行と変容」（『日本中国学会報』61 集、2009 年）等。

関連リンク

東洋大学研究者情報データベース（白井順准教授）
http://ris.toyo.ac.jp/profile/ja.08cae0a60c6f5e8f1b507f949c6d4f06.html